

音楽のジャンルについて

作成者 まよめいず

1. はじめに

この講座資料は実際の講座の内容に沿って作成されていますが、どちらかと言うと講座後に見返すことのできる資料として配布致します。

この講座では実際に曲を聴くことがたくさんあるので、その曲の印象であったり特徴であったり
をこの資料に書き込むことによって後々見返しが楽になりますので是非ご活用ください。

2. 大まかなジャンルの分類

- ・生音系楽曲
- ・クラブミュージック

この二つに分けて講座では紹介していきます。

3. 生音系楽曲

簡単に言ってしまうとバンドやオーケストラなどの目の前で演奏される音楽のこと（またはそれに準ずるもの）です。

DTMはパソコンなどを主に用いて作曲することですから目の前で演奏しているわけではないですし、なんなら楽器も必要ないです。

あくまで生音系というだけでバンドのような曲、オーケストラのような曲は生音系なんだなと思
っていただければ結構です。

基本的には日常の中で聴く音楽はこの生音系楽曲であるひが多いと思います。

(1) ロック・ミュージック

いわゆるロックですね。基本はエレキギター、エレキベース、ドラムなどで構築されていてキ
ーボードが入っているのもよく見かけます。

有名所ではビートルズやクイーンなどがあげられると思います。

最近では邦ロックと呼ばれる日本人のロックバンドが若者の間で流行っていて、SEKAI NO OWARI、
ゲスの極み乙女。など特徴的な楽曲をテレビなどでよく目にするのではないのでしょうか。

(以下 Wikipedia より引用)

ロック・ミュージック、ロック音楽（ロックおんがく、英語: rock music）は、1950年代にアメリカ合衆国におけるロックンロールを起源とし、1960年代以降、特にイギリスやアメリカ合衆

国で、幅広く多様な様式へと展開したポピュラー音楽のジャンルである。

ロックは、通常はエレクトリックベースやドラムスとともにロック・グループを構成している、エレクトリック・ギターを中心とした音楽である。典型的には、ロックは歌のある曲で、通常は4分の4拍子でヴァース - コーラス形式をとるが、このジャンルは極端に多様化しているため、共通した音楽的特徴を定義づけることは困難である。ロックのサウンドは、伝統的にエレクトリックギターが中心となるが、現代的な形態のエレクトリックギターは1950年代にロックンロールの人気とともに登場したものであった。ロックにおけるエレクトリックギターのサウンドは、典型的な場合、同時期にジャズにいち早く導入されたエレクトリックベースと、ドラムとシンバルを組み合わせたドラムセットによるパーカッションによって支えられる。この3つの楽器によるトリオに加えて、他の楽器が追加されることも多く、特にピアノ、ハモンドオルガン、シンセサイザーといったキーボード類が加えられることがよくある。ロック音楽を演奏するミュージシャンのグループは、「ロックバンド」「ロックグループ」と呼ばれることが多く、典型的には2人から5人のメンバーから構成される。ロックバンドの古典的な形は、ボーカル、リードギター、リズムギター、ベース、ドラムス、また時にはキーボードその他の楽器から、ひとつ以上の役割を引き受けるメンバー4人によって編成される。

(2) ジャズ

イメージとしてジャズはロックよりも生音！って感じがするんじゃないでしょうか。

ピアノ、コントラバス、ドラム、トランペットやサクソなどの管楽器などを使ったちょっぴりオトナな雰囲気の良い楽曲が多いです。

(以下 Wikipedia より引用)

ジャズ（英: jazz）は、19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカ南部の都市を中心に派生した音楽形式。西洋楽器を用いた高度な西洋音楽の技術と理論、およびアフリカ系アメリカ人の独特のリズム感覚と音楽形式とが融合して生まれた。演奏の中にブルー・ノート、シンコペーション、スウィング、コール・アンド・レスポンス（掛け合い演奏）、インプロヴィゼーション、ポリリズム（複合リズム）などの要素を組み込んでいることが、大きな特徴とされている。

(3) オーケストラ

管楽器、弦楽器で構成された楽団が演奏する。

よくコンサートホールなんかで指揮者がいてそれにしたがって大勢で演奏しているアレです。

(以下 Wikipedia より引用)

オーケストラ（英: orchestra、独: Orchester）は、管弦楽団とも呼ばれ、管弦楽曲、すなわち複数の弦楽器、管楽器および打楽器の編成による音楽を演奏するために組織された団体である。主にクラシック音楽を演奏するが、ラテン音楽やジャズ、その他のジャンルを演奏する団体もある。一般用語としては、弦楽器を含んだ比較的編成の大きな楽団をジャンルに関わりなくオーケストラと呼ぶことも多い。

第1ヴァイオリンからコントラバスまでの弦五部は多くの場合、各部の人数が演奏者に任されているが、管楽器は原則として楽譜に書かれた各パートを1人ずつが受け持つ。ただし実際の演奏会では、倍管といって管楽器を2倍にしたり、「アシスタント」と呼ばれる補助の奏者がつくこともある。

楽譜に示されたオーケストラの編成の規模を示すのに、二管編成、三管編成、四管編成という言葉が使われる。いずれも木管楽器の各セクションのそれぞれの人数によっておおよその規模を示す。

4. クラブミュージック

クラブミュージックとはなんぞや？というひともいるでしょう。

簡単にいえば、ディスコやクラブで踊るためのダンスミュージックが発祥です。

最近ではEDM（エレクトロニック・ダンス・ミュージック）というものが人気で名前はきいたことがあるなんてひがおおいのではないのでしょうか。

DTM班でも生音系に比べるとこちらを作る人が多いです。

音ゲーなんかをプレイしているひとは馴染みのあるジャンルも多いと思います。

(1) EDM（エレクトロニック・ダンス・ミュージック）

パーリーピーポーな人たちが踊ってるアレです。

エレクトロニック・ダンス・ミュージック=電気の踊る音楽

Skrillex や Rusko などのブロステップや、範囲が電子音楽全般（特にクラブミュージック系）に渡る James Blake, SBTRKT, Mount Kimbie などのポストダブステップは厳密なダブステップの定義からは外れる。またブロステップもダブステップの影響を受けた音楽と言う意味ではポストダブステップに含まれる。

(3) トランス

ソフメでも結構このジャンルを手掛ける人が多いので討論会などではよく耳にすることになるでしょう。

結構ゆったりとした優しい音楽ですね

(以下 Wikipedia より引用)

トランス (Trance) は、ハウスから派生した音楽の一種である。130 から 150 くらいまで BPM (テンポ) のリズムに加え、うねるような旋律を奏でるのが特徴。そのリズムやメロディは、さも脳内の感覚が幻覚や催眠を催す「トランス状態」に誘うかの様な様式からトランスと呼ばれている。主にクラブシーンやレイヴパーティーなどで DJ らによってターンテーブルまたは CD プレイヤーなどを用いて演奏される。

サイケデリックトランス、ユーロトランス (Euro Trance)、ハンズアップ (Hands Up)、ユーフォリックトランス (Euphoric Trance)、テックダンス (Tech Dance) など様々な派生ジャンルがある。

(4) ドラムンベース

特徴的なリズムとベースで低音が特徴のサウンド

カッコいいからオシャレ、疾走感などなんでもこなせる

特徴的なリズムは他のジャンルにも応用されることがしばしば

(以下 Wikipedia より引用)

ドラムンベース (英: Drum and bass) は、電子音楽のジャンルの内の 1 つ。BPM が約 150~180 であり、高速で複雑なシンコペーションを用いたブレイクビーツサウンドにキックとベースを強調した重低音が特徴 [1] [2]。通常はサンプリングやシンセサイザーを用いて制作される。略称として DnB、D&B、D'n'B などがあり、別表記は Drum 'n' Bass、Drum & Bass など。

ドラムンベースは主に 160 以上の BPM を用いているが、一拍 (四分音符) を単位としてその BPM 通りに感じることでより上昇感・疾走感を強める方法と、二拍を単位とし

そのBPMの半分としてとらえることでゆったりとした感覚や空間的広がりを強める方法がある

また、近年はドラムベースのリズムを更に複雑化させたドリルンベースというジャンルも誕生している。ドリルンベースはSquarepusherが始めたとき、Aphex Twinを始めとするコーンウォールー派が有名である。

(5) ハードコア

皆さんお待ちかね？のハードコアです

音ゲーをプレイしている人には馴染みのあるジャンル

実際にきくとわかりますがテンポの速い厳つい曲が多いです

ハッピーな曲や疾走感のある曲などいろんな派生ジャンルがありますが基本的にはカッコいい曲が多め

(以下 Wikipedia より引用)

ハードコアテクノ (Hardcore techno) は、「ハードコア」としてオランダの人々に知られており、1990年代初めから半ばにかけてオランダのロッテルダム、アメリカのニューヨーク、オーストラリアのニューキャッスルなど多数の場所で出現した電子音楽のスタイルである。ハウスを源流とし、高速なテンポ[1] (140-300BPM。時にはそれ以上) と、主張が強いビート、大胆かつリズムカルなサンプリングが特徴。

単に「ハードコア」(Hardcore) と呼ばれる事も多いために、USA やロシアにあるエモーションナル・ハードコア (Hardcore emo) あるいはハードコア・パンク (Hardcore punk) と混同される事もあるが、全く別の形態のものである。(しかしその音楽性には通ずるところがある。)

現在ハードコアテクノをはじめとする電子音楽はミュージックシーケンサーを用いて作成される事が一般的であるが、以前はMODトラッカーによりパソコンで作成されていたものも多かった。その手法は、用意された素材や既存の音楽・時にはアンダーグラウンドなカルチャーからのサンプリングや、シンセサイザーによる音作りとその演奏、ディストーション等によるそれらの加工など、様々である。ハードコアテクノのアーティスト達は、時に従来の音楽文化を度外視する前衛的なジャンルのひとつとして、コンピュータの持つ幅広い可能性を活用し、それぞれが形にとらわれない独自の作曲手法を考案し続けている。

5. まとめ

本日紹介したジャンルの他にもたくさんありますし、派生ジャンルを含めて無数の曲があります。

皆さん自分のお気に入りが見つけれられるようにいろんな曲をききましょう！

このジャンルの作り方わからないよ～ってときは気軽に先輩方にききましょう！

それではみなさん良いDTMライフを！